

終了 午前七時

網船間ニ網ヲ入レ漁獲物收容歸港活魚網ニ移ス

九月十四日

暴風ノタメ予定日數超過シ更ニ「ヤツブ」方面ニ新低氣壓現レ見込立たズ切揚ゲノ準備

九月十五日

活魚網ニ漁獲物收容ノ儘蓄養試驗ノ目的ニテ監視人ニ委ス

那霸歸港

四、鯉釣餌料蓄養試驗

一、趣 旨

鯉釣漁業ハ本縣遠洋漁業中最モ重要ナル漁業ニシテ遠洋漁業盛衰ノ中心ハ本漁業ノ盛衰ト終始スルモノ見ルベク而シテ近年漁場ノ開拓適種漁船ノ建造益々多カラムトシ鯉釣漁業モ其ノ操業上ノ技術並ニ經營ノ企劃ニ於テ合理的ナラシメントスル機運ニ到レリ。然ルニ經營上最モ重要ナル餌料ノ本縣下ニ於ケル狀ハ甚ダ不完全ニシテ生産量ノ不定、漁期ノ不定、蓄養施設ノ不備、需給兩者ノ無連絡等アリ。鯉釣漁ヲ主要生産物トスル本縣トシテハ最モ速急ニ研究改良スベキ事項ナリトス

依テ昭和六年度ニ於テハ蓄養方法及餌料集中並移入餌料蓄養ノ施設並經營上ノ必要事項ニ付キ試驗ヲ施

二、施行方法

本試験ハ本縣トシテハ初メテノ試験ニシテ且ツ速急ニ効果ヲ期待スル處多キヲ以テ基本的研究ヲ第二年目以後ニシ初年度ニ於テハ蓄養設備及縣内産餌料集中、並需給兩者ノ連絡ニ主眼點ヲ置キ猶ホ地方關係者ニ速ニ改良誘導ノ機運ヲ促ス便宜ノ爲メ試験ノ際一部ヲ當業者ト連絡施行セリ

計劃方法

1、蓄養餌料種類ノ試験

- イ、地方産ノモノ（從來ノ追込網漁獲ノモノ）
- ロ、集魚燈使用捕獲ノモノ（本場ノ試験漁法）
- ハ、他縣ヨリ買入ノモノ

2、蓄養設備ノ試験

- イ、蓄養設備ノ研究
- ロ、蓄養地ノ研究
- ハ、適種餌料ノ選定

3、經營上ノ參考資料研究

- イ、蓄養量ノ適量

1917年11月10日

東京府立第一高等学校

文芸部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部

文学部



ロ、餌料ノ集中方策

ハ、生産期節ト蓄養期間

三、經 過

該試驗ハ昭和六年四月ヨリ準備ニ着手シ六月中旬設備ノ完全ヲ爲シ六月二十七日ヨリ蓄養ヲ開始シ以後、年九月十六日蓄養ヲ閉止スル迄計四ケ月間ニ亘リ日數八十二日トス即チ此期間ハ本縣鯉漁業ノ盛漁期ヨリ終漁期ト畧一致スルモノトス試驗ノ狀況並經過ヲ簡明ニスル爲メ内容ヲ前項計劃方法記載ノ順ニ記ス

I、蓄養餌料種類ニ付テ

イ、本縣下ニ於ケル餌料ノ種類ハガツン（アジ）スルル（玉筋魚）小鯖、ハダカイワシノ四種ヲ主トシ其内鯉初漁期ニ於テハ「スルル」最モ多ケレバ漁期一定セザルコト、捕獲量一定セス、蓄養困難且漁船内活魚艙ニ長ク生活セズ遠洋漁船ニハ不適當ナリ（之レハ從來各漁船及地方ニ於テ經驗セル實際ル多ク特ニ試験スル迄モ無キ見込ニテ假リニ適否ノ比較ヲナス）

小鯖ハ漁獲稀ニシテ四、五月頃表面水溫ノ著シク寒冷ナル年ニ來游スルコトアレバ此レヲ予期ンテ餌料トスルコト困難ナリ

從テ本年ニ於テハ、漁期、生産量、漁獲方法等ニ或ル程度迄ノ予測ヲ爲シ得ル「ガツン」ニ付テ試験ヲナセリ

「ガツン」ハ例年五月下旬ヨリ本縣沖繩嶋ヲ中心トシテ來游シ八月下旬迄捕獲セララルヲ以テ之レニ留意シ計劃ノ眼点ヲ之レニ置キタリ

「ガツン」捕獲方法ハ從來本縣特有ノ追込網ヲ使用シ漁法モ本縣特有ノ方法ニシテ造礁珊瑚多キ本縣沿岸ニ於テハ最モ適當ナル漁法トス、依テ本試驗ニハ此ノ漁法ニ依ル漁獲餌料ヲ供試資料トシ

ロ、他ニ當場小型發動機船ヲ網船トシ之レニ傳馬船二隻、刳舟二隻ヲ附屬セシメタル焚入網ニ依ル漁獲餌料ヲ蓄養セリ

ハ、他縣ヨリ餌料買入レヲ爲シ蓄養試驗ヲセムト計劃ノ當初ニ自論見タルモ施行期間中ハ縣内産餌料充分ナリシト他縣（鹿兒島縣下及台灣基隆並蘇澳方面ニ於ケル餌料ハ序々不足ノ狀勢ナリシヲ以テ本年ハ之レヲ行ハズ且又將來本試驗ヲ繼續スル場合ニアリテモ此項目ハ臨機試驗セムトシ本縣内産餌料試驗ニ對スル參考資料ヲ得ル程度ニ止メムトス

2、蓄養設備ニ付テ

イ、竹籠生洲 貳拾箇

本年五月中鹿兒島縣産竹材ヲ買入レ運搬便宜ノ爲メ全地ニ於テ竹割及骨竹並浮竹ヲ組立ノ寸法ニ切り調へ此ノ工程ヲ經タル後本縣名護町ニ送付セシメ全地ニ組立職工三名ヲ雇入レ五月十二日ヨリ着手全月二十一日完成ス

竹籠寸法及形

竹籠ハ鹿兒島縣下及關西地方ニテ使用スル角籠ニシテ竹材ハ表皮部ノミヲ使用ス

縦、横、深……八尺×六尺×六尺

○網生洲 參個

綿糸二號二十五節 カツチ染網地ヲ以テ作ル

仕立上寸法

從、横、深

十二尺×十尺×十尺ノモノ

貳統

全

十尺×十尺×十尺ノモノ

壹統

○竹籠及網生洲設置方法

徑六分ワイヤ長百二十尺ノモノ二本ヲ平行ニ二十尺ノ間隔ヲ以テ充分ナル浮力ヲ有スル様ニ、孟宗竹東ノ浮子ヲ附シ各端ヲ徑八寸マニラロープノ錨網ニ固着ス斯クシテ竹籠及網生洲ハ此ノ平行セルニホノ浮力網ノ間ニ一列ニ固着セリ

ロ、○蓄養地

蓄養地ハ計劃當初ニ於テハ本島名護地方及東海岸地方ニ各一ヶ所宛ノ豫定ナリシモ初年度ニ於ケル準備ノ都合ト漁期ノ關係ニテ東海岸ニ於ケル一ヶ所ノ豫定ヲ變更シ名護灣内ニ二ヶ所ヲ設置シタリ而シテ其内一ヶ所ハ同地大兼區地先ニシテ西及北強風ノ荒天時以外ハ蓄養ニ適スベク他ノ一ヶ所ハ同灣ノ一部許田入江ノ海岸ニシテ此ノ海區ハ東ノ強風時以外ハ蓄養設備ニ破損又ハ被害ヲ來サザル地勢ヲ利用シタリ

東海岸ニ於ケル計劃ハ全然設備ヲ斷念セルニ非スシテ餌料漁獲ノ狀況ニ依リ速急ニ設備シ得ル様考案

シ即チ前記許田地先ノ設備ハ此ノ場合移動又ハ急速ニ東海岸へ移轉シ得ル様ニ其材料ヲ選定セリ
然ルニ本年度ニ於テハ東海岸ニ於テ設置ヲ必要トスベキ實況ニ到ラズシテ漁期ヲ終レリ

ハ、餌料ノ選定

本年ハ例年ニ比シ餌料タル「ガツン」ノ漁獲少ク良否取捨ヲ爲ス迄ニ到ラザリシ爲メ全漁獲量ヲ一旦
蓄養シ後段記載ノ通り餌料トシテ配給セリ

然レトモ前年以來使用セル「ガツン」ノ習性及活魚艙内ニ於ケル狀況ヨリ後段ニ概況ヲ摘記シ今後ノ
參考資料トス

3、經營上ノ參考資料トナルベキ事項

イ、蓄養量

本年實施ノ蓄養量ノ計劃ノ基礎ハ竹籠一個收容量百五十斤宛(和斤)ヨリ二百斤迄竹籠二十ヶ分三千斤
ヨリ四千斤ニシテ大型鯉船四航海分ニ畧相當ス

網生洲 中形ノモノ一統二千斤宛

全 大形ノモノ三千斤乃至五千斤迄

ロ、餌料集中方策

○、名護灣地方ニ於ケル從來ノ餌料漁業者ヨリ買入レタリ

此地方ニハ七組ノ各別個ニ經營スル餌捕組合アリ之レニ對シ本年四月下旬ヨリ五月初旬ニ亘リ代表
者ノ會合ヲ求メ協定シ買入方法、斤量計量方法、試験事業トノ連絡、互助ニ關スル内約ヲ爲セリ

○、試験施行地方當業者ヲ（組合）指定出漁セシメタル漁獲物ノ買入ニ關スル協定

○、本場ニテ焚入網ヲ使用シタル場合ノ漁獲物以上三項目ヲ協定シ實行セリ

ハ、生産期節ト蓄養期間

○、「ガッソ」ノ捕獲ハ例年五月下旬ヨリ開始シ八月下旬ニ終了ス

其狀況ヲ見ルニ年ニ依リ多少ノ早晚ト魚体ノ大小アレモ常態ヲ摘記スレバ左ノ通りトス

四月下旬ニ初メテ体長三〇―四耗ノモノヲ認ム

五月初旬四〇―五〇耗ノモノ沿岸岩礁間ニ認ムルコトアリ

下旬五〇―七〇耗ノモノ漸次群來シ沿岸特別ノ形態ヲナセル岩礁ノ周圍又ハ岩礁間ノ砂地

停滞ス

六月体長一〇〇耗トナリ魚群漸次大トナリ群ノ數モ益々多クナル

七月初旬九〇ヨリ一〇〇耗トナリ最多漁期トス

八月体長一二〇耗以上トナリ餌料トシテハ大型ニ過ギ且漁獲量ノ減少ト魚群ノ出現稀トナル

○、蓄養期間

魚体及漁期ノ關係ヨリ六、七兩月ノモノヲ成ルベク長期ニ蓄養シ八月及九月中旬迄鯉漁船ニ供給得ラルルヤ否ヲ最モ注意シ本年ニ於テハ七月九日漁獲ノ餌料ヲ二十九日間蓄養ノ上本場指導船圖丸ニ活込ミ出漁沖合ニ於テ尙十日間何等支障ナク使用シ得タリ

以上ノ如キ資料ヲ得タルヲ以テ次年度ニ於テハ長期蓄養ニ猶充分ノ注意ヲ拂ヒ蓄養量ヲモ増加セ

四、結果摘要

1、本年ノ供試種類タル「ガツン」蓄養ハ適當ト認メラル次年度以後ニ於テハ此ノ上習性、漁期予想等ノ資料ニ供スル試験ヲ加味セムトス

2、蓄養設備ハ本年試ミタル角籠適當ナレトモ本縣下餌捕業者ノ使用スル刳舟ニテハ取扱上大型ナル爲メ不便ヲ感スルヲ以テ傳馬船ヲ使用セザル地方用トシテ丸魚籃形モ今後試験セムトス

網生洲ハ大量漁獲アリタル場合ニ一時之レヲ利用シ漸次竹籠ニ一定量宛移シ入ルルニ便ナリ

3、蓄養地

海岸汀外縁附近ニ於テ沖合ヨリ入ル波浪ノ破ルル位置ハ灣形ト底形ニ依リ畧一定スル故蓄養場所ハ此ノ地点ノ外部又ハ内部何レカヲ選定スルヲ要ス

而シテ内灣又ハ風浪強カラザル地方ニテハ成ルベク外部ヲ選ビ風浪強キ地方ニテハ内部ヲ選定スルヲ適當ト看ラル

4、本年度試験ノ結果七月中ノ餌料ハ魚体並生活力強ク好適ナル蓄養餌料ト認メラレタリ

次年度以後ハ各期節毎ニ付キ漸次觀測、測定比較研究ノ項目ヲ増加セムトス

5、蓄養量

竹角籠ハ一個百斤乃至百二十斤ヲ適量ト認メラル

但シ二百斤程度ヲ收容スルモ一週間以內ナラバ故障少キモノト認メラル

網生洲ハ潮流ニ煽ラレ收容餌料ノ驚怖狀況著シキ爲メ常時用トシテ適セザルモノト思惟セラル、且ツ「ガツン」ハ鰻類ナルヲ以テ体側ノ鱗列ヲ磨ク損傷多シ

6、餌料集中方策ニ就テハ施行地ノ四圍ノ事情ニヨリ一定シ難ク且又ハ漁村並當業者經營上ノ内容ニ直關係アルヲ以テ指導又ハ振興的手段ヲ選ブベク劃一的方法ヲ講スル迄モ無シトス

7、○本年ノ漁獲初期ハ例年ニ比シ二十五日遅レタリ

○初漁期遅レタル結果魚体ハ例年ノ初期ノモノニ比シ大型ニシテ例年ハ同一期節ノモノト畧同形ナリ

○蓄養期間ノ長短ニ依リ漁船内活魚鱗ニ於ケル状態ニ支障ナキコト

○捕獲餌料ハ即日魚艙ニ活込ミ出漁スルモ差支ナキコト

即チ「飼馴シ」「活付ケ」日數ヲ要セザルコト

○蓄養場ノ海水ニ雨水、河水、暴風後ノ濁水等ヲ混スルモ餌料魚ニ影響少キコト

以上ノ諸点ヲ測知シ得タリ

五、記 録

第一表 蓄養狀況及需給狀況

漁獲月日	漁獲量	蓄養量	全方法	漁獲者	供給月日	蓄養日數	需 要 者	備 考
六月二十七日	一、八〇〇斤	一、八〇〇斤	四籠	龜四組	六、三	三	壽丸	壽丸二五〇〇斤
六、三〇	一〇〇	〇	一	龜次郎組	八、三	四	試 驗 丸	三〇〇斤 魚体調査ノ爲長期蓄養
七、一	八〇〇	八〇〇	二	玉城組	七、二	二	寶 丸	
七、二	八〇〇	六〇〇	三	蒲太組	七、七	八月十五日	暴風ニテ流失	風浪ノ爲減少セル故一八〇斤トシテ 供試驗用ニ買入レ圖南丸第二回 用トシテ準備蓄養中
七、三	四〇〇	三〇〇	一	廣吉組	七、八	八月五日	暴風ニテ流失	全、三〇〇斤
七、四	五〇〇	一、〇〇	網生洲一個	蒲太組	七、六	三	壽 丸	一、二〇〇斤
七、五	八〇〇	四〇〇	二籠	廣太郎組	七、七	四日 三日	寶 泉 丸	八〇〇
七、九	二〇〇	二〇〇	一	龜四組	八、六	二	圖 南 丸	蓄養試驗後使用セシム
七、一六	四〇〇	四〇〇	二	蒲太組	八、六	三日	圖 南 丸	計八〇〇斤トナル
七、一七	七〇〇	七〇〇	二	廣吉組	八、六	三	全	
七、二二	七〇〇	七〇〇	二	蒲太組	八、六	一五	全	
七、二四	二〇〇	二〇〇	一	廣吉組	八、六	一四	全	計七五〇斤トナル

第二表 蓄養場觀測表

八、二〇	八、一九	八、一七	七、一五	八、一五	八、一四	八、一
キビ三五	グルクン五〇	カツン三〇	スク三〇	一五〇	七〇〇	五〇〇
二五	五〇	三〇		一五〇	七〇〇	五〇〇
	一籠			一	二	二
全	全	全	集魚燈	全	玉城組	龜次郎組
					八、一五	八、一六
					二	六
漁獲中ニ死亡	全	供試用	餌料ニ不適當ノ爲死滅	風強ク漁獲後逃逸ス	全	魚体過大ニ付市販賣

五、一	二	三	四	五	六	七	八
晴	曇	晴	曇	晴	晴	晴	晴後曇
南	北	北東	北東	東	南東	南	北
二	二	二	四	四	四	一	一
備	蓄養試驗事務開始	全 準備	蓄養竹籠設計開始	全	全	網生洲設計開始	
考							

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	十	五、九	
曇	曇	曇	曇	曇	晴	曇	晴	曇	晴	晴	晴	晴	曇	晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇

南一	北東二	南東四	南一	東一	北東一	南二	南一	東二	北東一	北東一	北東四	北東四	北二	東一	北一	北東一	北東一	東一	北東一
----	-----	-----	----	----	-----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	-----	-----	----	-----

竹籠設計終了

全 事業場事務用品整備

全 生洲網作製着手

一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三〇	二九	
雨	雨	曇	晴	晴	曇	雨	曇	晴	晴	曇	曇	曇	晴	曇	曇	曇	曇	曇	晴
南南東二	南東四	南三	北北東一	北北東一	北西三	北東三	北東一	北二	北北東三	南三	北東二	南二	北東二	北東二	北東二	南一	南四	南東二	北一

網染釜据付着手

浮竹買入レ 竹籠製作工本日着

蓄養設備材料日本漁網ヨリ受取

竹籠製造人夫名護へ出張 浮竹製作

作業前日ニ同ジ 名護ニテ竹籠製作開始

作業前日ニ同シ

作業前日ニ同シ

全作業終了

竹籠製作終了

網染釜完成ス

網染メ

生洲網染ム 名護営業者ト協議

名護営業者ト協議終了

焚入網修理(於本場)

係員一名名護へ出發メ 竹籠作製終了

名護ノ事務所借入(名護) 焚入網修理終ル(本場)

ガツン群沿岸ニ接近シツ、アリ(名護)

ガツン漁况監視

許田灣ニテ「ガツン」初漁

七	六	五	四	三	二	一	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八
晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	曇	雨	晴	晴	晴	晴	雨	晴	雨
東一	南三	南西三	南三	南西三	南三	南三	南三	南西二	南一	南二	西二	西三	南三	南西三	南二	南東三	南東三	南二	南南東二
二七、八三	二七、八三	二八、八三	二八、八三	二八、八三	二九、三〇	二九、三〇	二九、三〇	二九、三〇	二九、三〇	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度
三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、〇〇	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度	三〇、度

観測開始準備完了

一、八〇〇斤	二〇〇斤	八〇〇斤	八〇〇斤	八〇〇斤	四〇〇斤	二、〇〇〇斤	八〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤	二、〇〇〇斤
午前六時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時	午前七時
大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組
午後六時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時	午後七時
大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組	大城龜次郎組

蓄養場用鑑準備

地方例祭ノ爲メ出漁者ナシ

網修理

傳馬修理 生洲實施方法研究

海水清澄トナリガツン群沿岸ニ接近シツ、アリ

漁業者出漁準備成ル

魚群見ニルモ波高キ爲メ出漁見合セ

電話ニテ漁況水試打合セ

試験用具名簿へ送付雨天ノ爲メ延期

鰯及番鰯札ノ用意

鰯南丸へ試験用品輸送依頼ス

午後〇時三十分鰯南丸來名全三時出港

午後三時三十分千鳥丸入港

午後六時大城龜組約八〇〇斤漁獲

午前六時濱本丸(本部)大鱈次組ヨリ三〇〇斤供給出帆

午前七時玉城組名護口出漁

午後二時全組八〇〇斤漁獲 寶丸入港餌買入レノ交添中

寶丸餌入レ出帆上原蒲太組八〇〇斤漁獲

大城龜次郎組三〇〇斤試験用ニ決定

廣吉組三〇〇斤漁獲有リ

上原蒲太組三〇〇斤漁獲 玉城組漁ナシ

上原廣吉組許田ニテ八〇〇斤漁獲

千鳥丸許田へ避難(波高キ故)

壽丸上原蒲太組ヨリ一斤一八錢替トシテ三〇〇斤供給(許田

在中ノモノ)玉城組漁ナシ

龜次郎組出漁スルモ漁ナシ 鰯南丸用トシテ廣吉組ヨリ

七、八	九	一〇	一一	一二	一三	一四	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六
晴	晴	曇	晴	曇	雨	晴	曇	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
南東一	南東二	南東三	南西二	南西三	南西三	南西三	南東一	南南東一	東一	南南東二	南東二	南南西二	南西二	南二	南西三	南西一	南二	南一
二九、〇〇	二八、六〇	二八、五〇	二九、一六	二九、〇〇	二九、六六	二七、五〇	二八、〇〇	二八、八三	二九、三三	二八、三二	二九、一六	三〇、〇〇	二八、八三	二九、三三	二八、三三	二九、三三	二九、〇〇	二八、五〇
二八、八三	二七、六六	二八、八三	二八、六六	二八、六六	二九、三三	二八、三三	二八、六六	二八、一六	二八、三三	二八、三三	二八、五〇	二九、〇〇	二八、〇〇	二九、〇〇	二九、五〇	二八、三三	二八、三三	二九、〇〇

三〇〇斤蒲太組ヨリ一八〇斤各斤一八錢替トシテ供給
 玉城組上原廣吉組出漁スルモ漁ナシ網浮製作業ス
 大城龜組許田ニテ三〇〇斤漁獲側網敷製作業ス
 焚入網、曳網、浮子付作業ス出漁セズ
 上原廣太郎組出漁スルモ漁ナシ大城龜次郎組ヨリ一八
 錢替トシテ蓄試用全部受取ル
 上原廣吉組、大城龜組出漁スルモ漁ナシ
 波高キ爲メ出漁セズ、千鳥丸許田へ廻航本場ヨリ「ガツ
 ン」三〇〇斤買入ノ電通アリ
 大城龜組許田へ出漁セルモ漁ナシ風浪強シ、活籠、浮子
 竹、修理作業
 午届六時焚入準備人夫七人(許田沖)七時焚入始ム
 玉城組廣吉組漁ナシ
 午届五時焚入終了「スク」一斗(三斤)漁獲蒲太組東江海岸
 ヨリ四〇〇斤漁獲アリ
 廣吉組名護口ニテセ〇〇斤漁獲アリ午届七時焚入始ム
 午前三時焚入終了漁ナシ許田、名護口共ニ出漁セズ
 廣吉組(許田)大龜組(名護口)出漁スルモ漁ナシ
 午届七時焚入初ム
 午届四時焚入終了漁獲ナシ午届三時漁況報告ス(本場へ)
 玉城組名護口出漁スルモ漁ナシ竹籠修理作業ス
 上原蒲太組名護口出漁七〇〇斤漁獲
 廣吉組名護口出漁三〇〇斤漁獲
 玉城組名護口出漁スルモ漁ナシ側網結付作業ス
 龜次郎組名護口出漁漁ナシ

一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	八、	三	三〇	二九	二八	二七
晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴
南東一	南東一	南東一	南東一	南東二	南南東三	南南東二	北東四	北北東二	北北東二	北北東一	北東一	東三	東二	東一	北東一	南東一	北東一	東一	西一	西一
二八、七五	二八、七五	二八、〇〇	二九、三三	二九、〇〇	二八、五〇	二八、六〇	二八、六〇	二八、五〇	二八、八三	二八、八三	三〇、二五	二八、八三	二八、九〇	二八、八三	二九、三三	二九、七五	二九、三三	二九、三三	二九、三三	二九、〇〇
二八、二五	二八、二五	二八、五〇		三〇、〇〇	二七、七五	二七、五〇	二八、〇〇	二八、〇〇	二七、七五	二七、七五	二八、〇〇	二八、五〇	二八、〇〇	二八、一六	二八、〇〇	三〇、五〇	三〇、六三	三〇、六三	三〇、六三	二八、三三
一〇、五五八五	一〇、五五八五	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、四二〇	一〇、四八〇	一〇、四七五	一〇、五二二	一〇、五二二	一〇、四八二	一〇、四八二	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五〇七	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五三三	一〇、五三三
七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤	七〇〇斤

上原廣吉組名護口出漁漁ナシ
 千島丸海苔落シノ爲メ許田網航
 大城龜次郎組名護口出漁漁ナシ
 玉城組出漁スルセ漁ナシ
 上原蒲太組名護口出漁漁ナシ午斤ヨリ水温急ニ下降
 廣吉組出漁三斤漁獲
 玉城組名護口漁ナシ
 大城龜次郎組名護口漁ナシ
 本場ヨリ側網ノ長サ問合セノ電話アリ
 側網測定シ報告ス
 關南丸入港蒲太組ヨリ八〇斤廣吉組ヨリ七〇斤一斤一八錢トシテ供給
 關南丸餌料積込出帆全船積込殘余二籠本日ヨリ蓄試用トス
 浜籠陸揚ゲ作業ス午斤ヨリ荒天模様トナル
 大城龜組名護口出漁漁ナシ本日低氣壓ノ徴候アリ
 側網結付作業
 大城龜組許田ニテ五〇斤漁獲 側網結付作業
 本日廣吉組玉城組出漁セズ
 蒲太組名護口出漁漁ナシ
 籠修繕、側網結付作業玉城組許田ニテ七〇斤漁獲
 蒲太組許田出漁漁ナシ玉城組名護口ニテ二五斤漁獲許
 田在中ノモノ陸揚ゲス

八、	一六	晴	東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五
一七	曇	北三	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
一八	曇	北東三	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
一九	晴	北東二	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二〇	曇	北東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二一	晴	北北東二	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二二	曇	北三	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二三	曇	北四	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二四	曇	東四	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二五	曇	南東四	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二六	曇	南南東三	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二七	晴	南一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二八	晴	南一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二九	雨	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
三〇	曇	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
三一	晴	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
九、	一	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
二	晴	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
三	晴	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	
四	晴	南東一	二八、七五	二八、五〇	一〇、五〇六五	

三斤
三斤

焚入終了、ガツン三斤漁獲廣太郎、大龜組漁ナシ、大
組許田在中三斤陸揚ケス、
廣島組、玉城組出漁漁ナシ、網修繕千島丸許田避難、
大模範
大城龜次郎組漁ナシ玉城組名護在中ノ一五斤風浪強キ
メ全港逃避
午後一〇時半焚入初ム、許田沖三四等
焚入終了三斤漁獲午後七時焚入初ム

焚入終了三斤漁獲側綱ツ、ワイヤーニ取替作業
低氣壓襲來ノ由千島丸許田避難風浪強シ

天氣漸次快復ス側綱結付作業

午前十時ヨリ許田へ籠見張ニ行ク

籠陸揚ケ作業ス

龜組名護口へ「ガツン」群見廻リニ行クモ見當ラズ

九	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九
晴	曇	晴	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴	晴	曇	曇	曇	晴	晴
南東一	南東一	北一	北東一	東二	南東三	南東三	南三	南西一	北東一	東一	北東一	北西一	西二	北西一	北西一
二八、三	二八、三	二八、〇〇	二八、〇〇	二八、八三	二八、八三	二七、三三		二八、五〇							
二八、三	二九、〇〇	二八、八三	二八、八三	二八、八三											
一〇三、五八	一〇三、三六	一〇三、三五	一〇三、二九	一〇三、四七											

午前十時許田ニテ籠見張り及比重測定ス

本日試験中止試験用品其ノ他整理引揚用意ノ電通有リ

許田ノ籠、側網、錨引上ク使用人夫一四人

人夫關係書類ヲ理名誰口籠、側網、錨等全部引揚ク

許田ニ設備・籠 側網、錨等事務所庭へ運搬ス

試験用品結束作業會計書類整理

試験用品發送準備

全

人夫賃其ノ他全部支拂済ミ

名義引揚ク完ク準備ナル

午後二時引揚ク歸籍ス